

# 濃縮における3S対応状況について

---

令和6年1月31日



日本原燃株式会社

## 本面談の目的

---

- 至近で発生した3Sインターフェースに関連する事象について、事象発生当時の業務プロセス、3Sインターフェースの観点における問題点を示す。

### 【事象1】

- 未封印かつ空シリンダとして申告している48Yシリンダを検認を経ないで複数回にわたり、貯蔵庫、プロセス、トラックヤードへの移動していた。そのため、シリンダの監視状態が喪失。
- ➡なお、事象1については、これまで複数回移動するシリンダに対して、保障措置上の要求事項が明確になっていなかったことから、今後、新たな要求事項を踏まえ3Sに係る問題点を検討していくものとする。

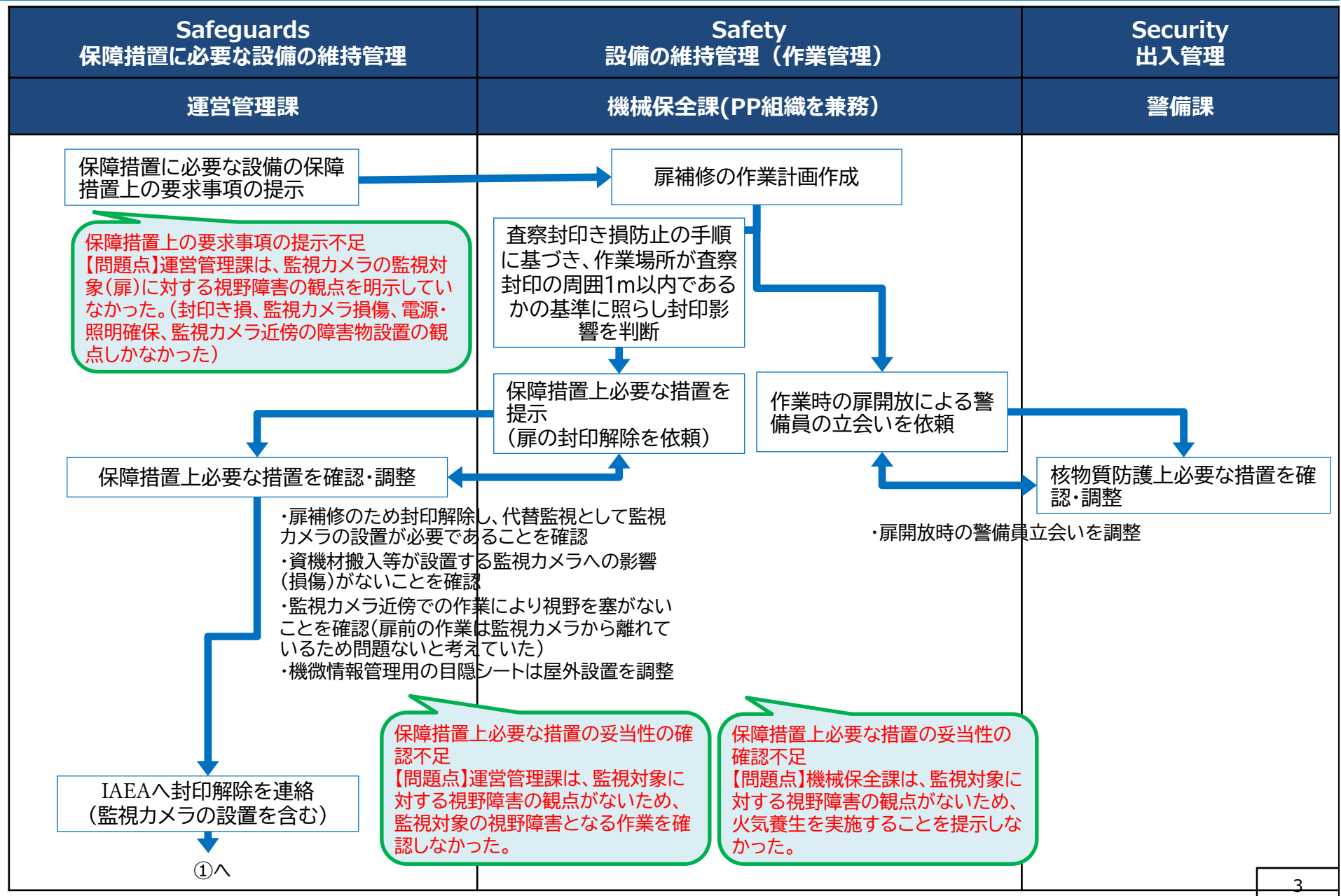
### 【事象2】

- 1Dカスケード室扉の補修作業を実施した際、補修作業のための防火養生や足場の設置により、カスケード室への搬出入口を監視するカメラの視界が塞がれていた期間が発生。
- 本事象においては、Safeguardsの保障措置に係る設備の維持管理を行う部署として運営管理課、Safety (Security) の設備の維持管理を行う部署として機械保全課、Securityの出入管理を行う部署として警備課が関与している。
- 本事象に対する各Sに係る部署の対応とその対応における問題点をフロー図1、現場の概略図を図1に示す。

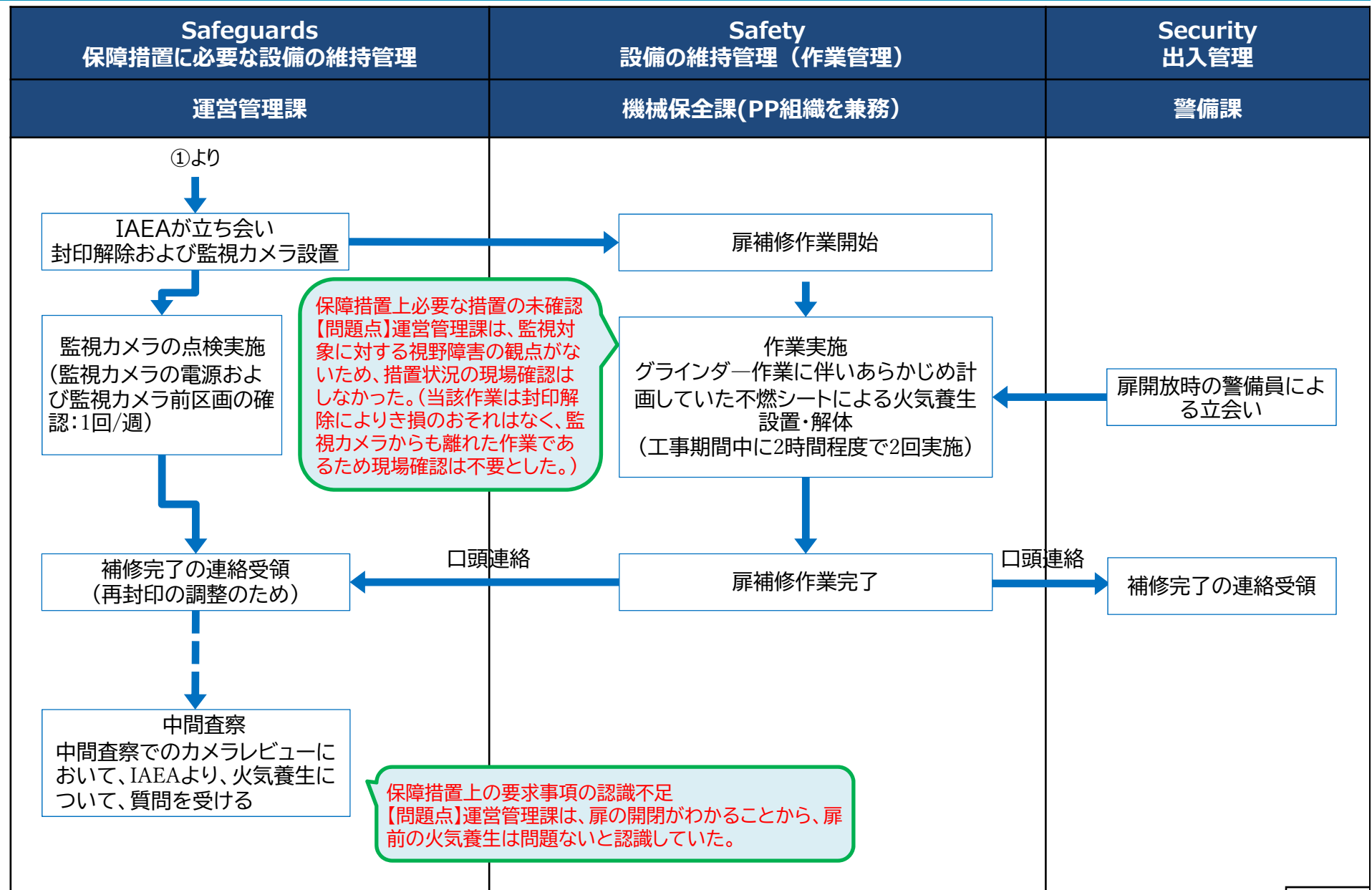
### 【事象3】

- 配管ピット（非管理区域）で発生した水（非放射性）の流入事象の対応として、流入した水を2号カスケード室前室扉を開放して排水した。その際、当該扉に設置されている査察封印の解除が必要と判断し、さらには漏えいが継続していたこと等を踏まえ緊急対応としてルールに基づき査察官の立会なしに事業者で解除した。
- 本事象においては、Safeguardsの異常対応を行う部署として運営管理課、Safetyの非常時の措置を行う部署として機械保全課、Securityの出入管理を行う部署として警備課が関与している。
- 本事象に対する各Sに係る部署の対応とその対応における問題点をフロー図2、現場の概略図を図2に示す。

■フロー図1：【事象2】1Dカスケード室扉のIAEA査察カメラの視野に障害が発生した(1/2)



■ フロー図 1 : 【事象 2】1Dカスケード室扉のIAEA査察カメラの視野に障害が発生した(2/2)



■ フロー図 2 : 【事象 3】2号カスケード室前室扉の査察封印がIAEAの立会いなしで取り外された。

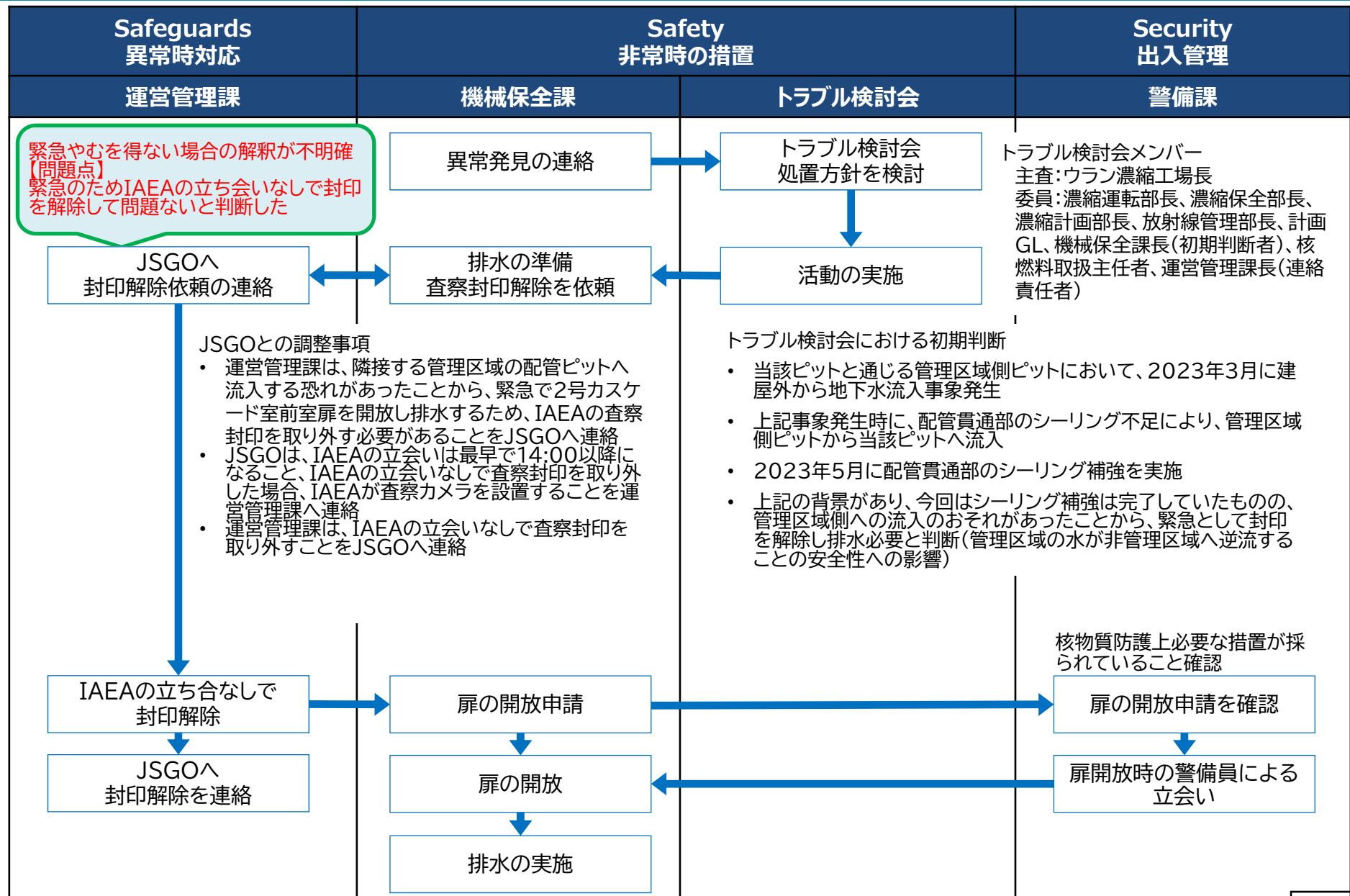


図1 1Dカスケード室概略図

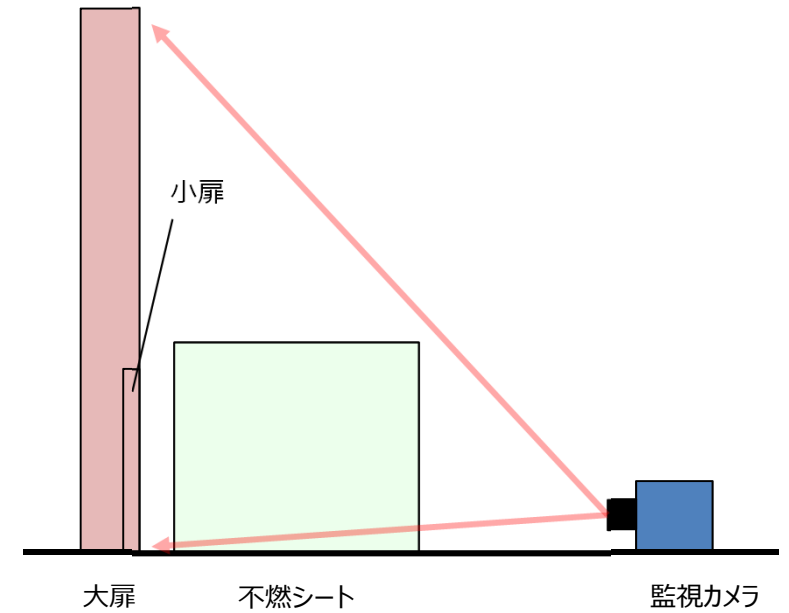
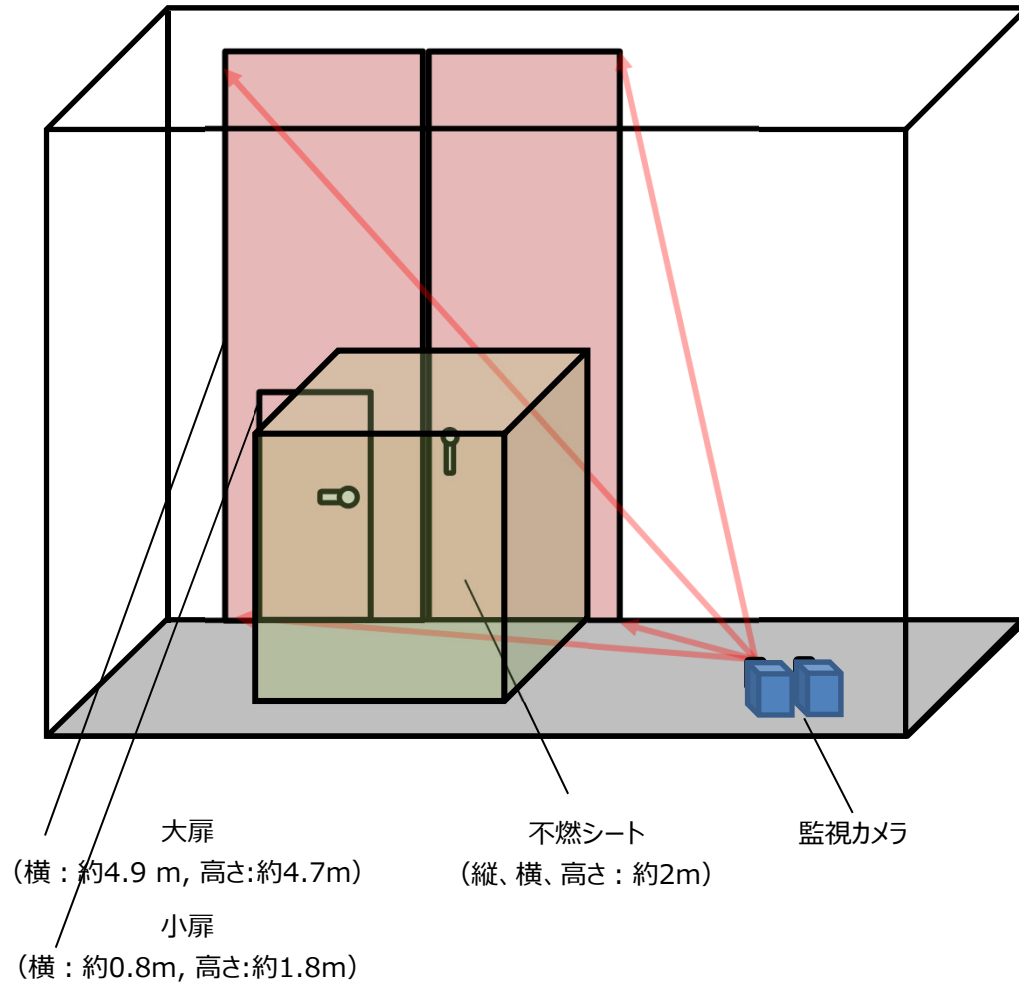
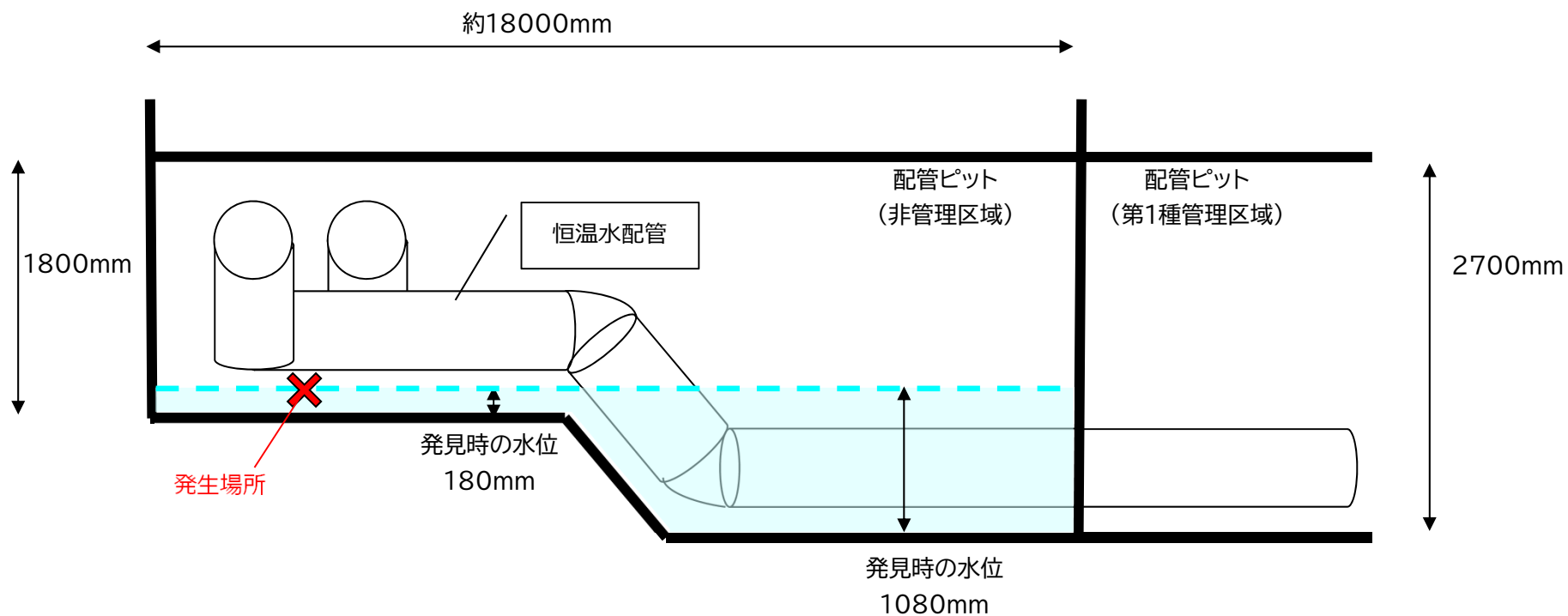


図2 配管ピット概要図



10:29 発見時 180mm(6m<sup>3</sup>)  
 13:30 排水開始時点 181.7mm (6.054m<sup>3</sup>) ※  
 15:00頃 IAEA到着時点 182.5mm (6.081m<sup>3</sup>) ※  
 ※ 流入量18ℓ/hとし推定

配管ピット内容積 約58.5m<sup>3</sup>  
 配管ピット内が満量となるまでの期間:121日※  
 ※ 流入量18ℓ/hとし推定